

因果関係における「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」 の日韓対照研究

— 「原因・結果推量」という観点から —

金 惠娟

キーワード：因果関係、原因推量（文）、結果推量（文）、推量判断形式

1. はじめに

「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」は、話し手が何らかの根拠をもとに推量判断する時に用いられるモダリティ形式である¹。

韓国語では、「ⁿ / ^l ¹ geosgatda 「^{deushada}」 「^{moyangida}」 「^{nga} / ^(lyeo) naboda

う補助用言で話し手の推量判断を表すことができる。이기중 (2001) は、韓国語「^{moyangida}」

「^{naboda}」は原因を表す推量判断によく用いられる表現形式であると述べている。

(1) 철수의 눈이 부어 있다. 시험에落ちて 다행히 울 모양이다.

(2) 비행기 탈 시간이 가까운 가 보 다. 그의 동료들이 차츰차츰 불 무 를 통 과 하 고 있 었 다.

2. 問題設定及び本稿の方針

韓国語の「^{moyangida}」と「^{naboda}」が原因を表す推量判断によく用いられるというイ(2001)の指摘と同様に日本語の「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」の場合においても、ある事態の原因について推量判断する場合、その使用に差が見られるのだろうか。

¹ 菊地康人 (2000a) 柏木成章 (2001) 参照。

² 鄭惠貞 (2000) は、「^l」は確実・透明な世界を、「^ㄷ」は不確実・不透明な世界を表していると述べている。

- (3³) 道がすごく凍っている。昨夜、雪がたくさん降ったようだ。
 (4) 道がすごく凍っている。それじゃ、滑る人も多くなりそうだ。
 (5) 知らない靴が玄関にある。お客さんが来ているらしい。
 (6) コーヒーを3杯も飲んだ。今晩は眠れなさそうだ。

例文(3)と(5)は、話し手がそれぞれ「ようだ」「らしい」である事態の原因について推量判断している文であり、(4)と(6)は、ある事態に基づき、そこから起こりうる事態について推量判断する文であり、話し手は「(し) そうだ」で推量判断を行っている。しかし、ある事態の原因について推量判断している(3)と(5)で、「ようだ」「らしい」の代わりに「(し) そうだ」を用いると非文になるか不自然な文になる。またある事態に基づき、そこから起こりうる事態について推量判断している(4)と(6)で、「(し) そうだ」の代わりに「ようだ」「らしい」を用いると非文あるいは不自然な文になる。さらに、韓国語の場合、(3)と(5)は「^{geosgatda}갓갈다」「^{deushada}뚫하다」「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」の四つの表現がすべて用いられるが、(4)と(6)で「^{geosgatda}갓갈다」「^{deushada}뚫하다」の代わりに「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」を用いると非文あるいは不自然な文になる。以下の例文において「*」は非文を、「?」は文が不自然であることを、「×」は命題に推量判断形式が接続できないことを表す。

- (3) ' a×道がすごく凍っている。昨夜、雪がたくさん降った(し) そうだ。

b 길이 많이 얼어있다. 어젯밤, 눈이 많이 왔 (던) ^{geosgatda}갓갈다 / ^{deushada}뚫하다 /

^{moyangida}모양이다 / ^{gaboda}가보다

- (4) ' a*道がすごく凍っている。それじゃ、滑る人も多くなるようだ/らしい。

b *길이 많이 얼어있다. 그럼, 미끄러지는 사람도 많아질 ^{moyangida}모양이다 /

(^{lyeo}려) ^{naboda}나보다

- (5) ' a??知らない靴が玄関にある。お客さんが来ているそうだ。

b 모르는 신발이 현관에 있다. 손님이 와 있는 ^{geosgatda}갓갈다 / ^{deushada}뚫하다 / ^{moyangida}모양이다

³ 本稿の例文はすべて作例である。

⁴ 例文判定は日本人・韓国人母語話者それぞれ10人の調査結果による。

gaboda
가보다

(6) ' a*コーヒーを3杯も飲んだ。今晚は眠れないようだ/らしい。

b*커피를 3잔이나 마셨다. 오늘밤은 잠 못 들 모양이다 / (lyeo) 나보다

(3)' ~ (6)' の例からも分かるように、「ようだ」「らしい」「(し)そうだ」と「겉같다

「deushada」모양이다」gaboda」は話し手がある事態の原因について推量判断しているの

か、あるいはある事態に基づきそこから起こりうる事態について推量判断しているのかによって、その使用に制限が見られる。そこで本稿では、推量判断文を「原因推量文」と「結果推量文」の2種類に分け、日本語⁵⁾の「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」においても韓国語のような特徴が見られるのかについて考察し、韓国語との共通・相違点について述べる。

3. 因果関係における「原因推量⁶⁾」と「結果推量」

話し手は内的根拠や発話における言述情報あるいは話し手の前提知識などを通じ、事態を推量判断する。そこで話し手は根拠と推測される事実との間には論理的な関係が成り立つと考える。つまり話し手は、推量判断の根拠と事態との間には因果関係が成り立っていると捉える。因果関係とは、ある2つの事態AとBにおいてBがAの原因の事態として成立しうる、またはBがAの結果の事態として成立しうる場合の両者の関係をいう。

(7) 太郎は今夜のパーティに来られない。急用ができた (+推量判断形式)。

事態A: 太郎は今夜のパーティに来られない

事態B: 急用ができた

(8) 電車が来ない。事故があった (+推量判断形式)。

事態A: 電車が来ない

事態B: 事故があった

(7) (8) の事態Aと事態Bは、事態Bが事態Aの原因として捉えられるため、事態Aと事態Bの間には因果関係が成り立っていると考えられる。

さらに、(9) (10) の事態Aと事態Bは、事態Bが事態Aから起こりうる結果の事態として捉えられるため、事態Aと事態Bの間には因果関係が成り立っていると考えられる。

⁵⁾ 「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」を事態Aと事態Bとの因果関係といった観点から取り上げた先行研究はあまり見当たらない。

⁶⁾ 「原因推量」「結果推量」という用語は先行研究で述べられたことはなく、本稿で初めて使う用語である。

(9) 今日からGWが始まる。遊びに行く人々で道が込む(+推量判断形式)。

事態 A: 今日からGWが始まる

事態 B: 遊びに行く人々で道が込む

(10) 今年は10年ぶりに暑い夏になるという気象庁の発表があった。今年はエアコンの売上が伸びる(+推量判断形式)。

事態 A: 今年は10年ぶりに暑い夏になるという気象庁の発表があった

事態 B: 今年はエアコンの売上が伸びる

つまり、ある二つの事態、つまり事態 A と事態 B の間に因果関係が成立する場合、2つのボタンが考えられる。1つ目は、事態 B が事態 A の原因について推量判断する場合であり、二つ目は、事態 B が事態 A から起こりうる結果について推量判断する場合である。本稿では、前者の B の文を「原因推量文」と呼び、後者の B の文を「結果推量文」と呼ぶことにする。

(11) a 道がすごく凍っている。 昨夜、雪がたくさん降った ようだ。 (再掲)

b 길이 많이 얼어있다. 어젯밤, 눈이 많이 왔다 보다

事態 A

事態 B (事態 A の原因推量判断)

(12) a 道がすごく凍っている。 それじゃ、滑る人も多くなり そうだ。 (再掲)

b 길이 많이 얼어있다. 그럼, 미끄러지는 사람도 많아질 것 같다。

事態 A

事態 B (事態 A の結果推量判断)

(13) a 知らない靴が玄関にある。 お客さんが来ている らしい。 (再掲)

b 못보던 신발이 현관에 있다. 손님이 온 모양이다。

事態 A

事態 B (事態 A の原因推量判断)

(14) a コーヒーを3杯も飲んだ。 今晚は眠れなさ そうだ。 (再掲)

b 커피를 3잔이나 마셨다. 오늘밤은 잠 못 들 듯하다。

事態 A

事態 B (事態 A の結果推量判断)

(11) は「道が凍っている」という事態に基づき、話し手がその原因を「昨夜、雪がたくさん降った」と推量判断している「原因推量文」である。それに対し、(12) は「道がすごく凍っている」という事態から起こりうる結果事態を「それじゃ、滑る人も多くなる」と推量判断している「結果推量文」である。また (11) では、「ようだ」と「^{na}_{bo}^{da}」で原因推量が行われており、(12) では「(し) そうだ」と「^{geosgatda} 것 같다」で結果推量が行われている。また (13) は話し手が「知らない靴が玄関にある」という事態からその原因を「お客

さん

さんが来ている」と推量判断している「原因推量文」であり、「らしい」と「^{moyangida}모양이다」で、その原因について推量判断している。(13) に対し、(14) は「コーヒーを3杯も飲んだ」という事態に基づき、その事態から起こりうる結果について推量判断している「結果推量文」であり、話し手はそれぞれ「(し) そうだ」と「^{deushada}듯하다」でその結果事態について推量判断を行っている。

4. 「原因推量」の日韓対照

4.1 例文分析

話し手が事態 A からその事態を引き起こした原因を事態 B だと推量判断する場合、その事態 B は、過去・現在（進行中）・未来の出来事が想定できると思われる。以下、事態 A の時制と事態 B（原因推量）の命題の時制別に分析を行う。

まず、事態 A の原因が過去にある場合からみていく。

(15) a 昨夜隣の家で物を投げる音が聞こえた。夫婦喧嘩をしていたようだ／らしい／×
(し) そうだ。

b 어젯밤 옆집에서 물건을 던지는 소리가 들렸다. 부부싸움을 했었 (던)

^{geosgatda} ^{deushada} ^{moyangida} ^{gaboda}
~~것 같다~~ / ~~듯하다~~ / ~~모양이다~~ / ~~가보다.~~

(16) a 電車が来ない。事故があったようだ／らしい／× (し) そうだ。

b 전차가 오지 않는다. 사고가 있었 (던) ^{geosgatda} ^{deushada} ^{moyangida} ^{gaboda}
~~것 같다~~ / ~~듯하다~~ / ~~모양이다~~ / ~~가보다.~~

(17) a 明日プロ野球はストに入る。昨日の会議がうまく行かなかったようだ／らしい／×
(し) そうだ。

b 내일 프로야구는 파업에 들어간다. 어제의 회의가 잘 되지 않았 (던)

^{geosgatda} ^{deushada} ^{moyangida} ^{gaboda}
~~것 같다~~ / ~~듯하다~~ / ~~모양이다~~ / ~~가보다.~~

(15) は事態 A が過去、(16) は現在、(17) は未来の事態であり、(15) ~ (17) の事態 A の原因は全て過去に存在する例である。(15) は話し手が「昨夜隣の家で物を投げる音が聞こえた」という事態からその原因について「夫婦喧嘩をしていた」と推量判断している。(16) (17) も (15) と同様に、話し手は事態 A からその原因について推量判断している。(15) ~ (17) の例からも分かるように、日本語の場合、「ようだ」「らしい」は事態 A の原因が過去に存在する場合、事態 A の時制に関係なく用いられるのに対し、「(し) そうだ」は用いることができない。それに対し、韓国語の場合は、4つの全ての表現で事態 A の原因について推量判断することができる。

次に、事態 A の原因が現在にある場合をみていく。

(18) a 太郎の部屋に電気がついている。帰ってきているようだ/らしい/??(し)そうだ。

b 타로우방에 불이 켜져 있다. 집에 돌아와 있는 geosgatda deushada moyangida
것같다/듯하다/모양이다

gaboda
가보다

(19) a 鈴木さんは明日の飲み会に来られない。風邪で寝込んでいるようだ/らしい/*(し)そうだ。

b 스프끼씨는 내일 술자리에는 못온다. 감기때문에 들어누워 있는 geosgatda
것같다

deushada moyangida gaboda
듯하다/모양이다/가보다

(18) (19) は事態 A の原因が現在にある例であり、(18) の事態 A は現在であり、(19) は未来である。ある事態 A の原因というのは、事態 A より時間的に前に存在しやすいと思われるが、(19) のように事態 A の原因が事態 A より後に存在する場合もありうる。事態 A の原因が現在にある場合、日本語の場合「ようだ」「らしい」を用い、事態 A の原因について推量判断することができるが、「(し) そうだ」はできない。それに対し、韓国語の場合は 4 つの表現ともが事態 A の原因について推量判断することができる。

最後に、事態 A の原因が未来にある場合である。

(20) a 昨夜お父さんは明日日付の退職願を書いていた。お父さんは明日退職願を出すようだ/らしい/*(し) そうだ。

b 어젯밤 아버지는 내일 날짜의 퇴직서를 쓰고 있었다. 아버지는 내일

퇴직서를 낼 geosgatda deushada moyangida (lyeo) naboda
것같다/듯하다/모양이다/ (려) 나보다

(21) a お母さんがデパートのチラシを見ながら化粧をしている。お母さんはデパートに行くようだ/らしい/*(し) そうだ。

b 엄마는 백화점 광고지를 보면서 화장을 하고 있다. 엄마는 백화점에 갈

geosgatda deushada moyangida (lyeo) naboda
것같다/듯하다/모양이다/ (려) 나보다

(22) a 明日、関東地方は大雨になる。明日台風が関東地方に一番接近するようだ/らしい/*(し) そうだ。

b 내일, 관동지방은 비가 많이 온다. 내일 태풍이 관동지방에 가장 접근하는

geosgatda deushada moyangida (lyeo) naboda
것같다/듯하다/모양이다/ (려) 나보다

(20)～(22)は事態 A の原因が未来に存在する場合であり、(20)は事態 A が過去、(21)は現在、(22)は未来に存在する。(20)～(22)からも分かるように、事態 A の原因が未来に存在する場合、事態 A の時制に関係なく、「ようだ」「らしい」を用い、事態 A の原因について推量判断ことが出来るが「(し) そうだ」はできない。韓国語の場合は、4つの表現で事態 A の原因を推量判断することができる。

4.2 分析結果のまとめ

本稿は事態 A と事態 B の因果関係から分析を行っており、すべての例文は事態 A と事態 B の2つの文で成り立っている。例文の分析結果、それぞれの推量形式は事態 A の原因について推量判断する時、その使用に制限が生じることが分かった。しかし、事態 A と事態 B が因果関係で結ばれていない場合、つまり事態 B のみが提示された時、そのような制限は見られない。

(18) ' 帰ってきている ようだ/らしい/(し) そうだ。

しかし例文分析からも分かるように、事態 A が提示され、話し手が事態 B を事態 A の原因として捉えた場合、「(し) そうだ」の使用は制限される。

「ようだ」と「らしい」は事態 A 及び事態 B の命題の時制に関係なく、話し手は事態 A の原因について推量判断することができるが、「(し) そうだ」は事態 A の原因について推量判断する時には用いられない。韓国語の場合、「^{geosgaida}것 같다」「^{deushada}듯하다」「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가 보인다」の4つのすべての表現が事態 A の原因について推量判断することができる。特に、「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가 보인다」は「原因推量」のニュアンスが強く感じられる。「ようだ」「らしい」が事態 A の原因について推量判断することができるのに対し、「(し) そうだ」はできない、また韓国語の4つの表現ともが事態 A の原因について推量判断することができ、特に、「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가 보인다」を用いた場合、原因推量の意味合いが強く感じられる理由については6. 考察で言及する。

5. 「結果推量」の日韓対照

5.1 例文分析

話し手が事態 A から起こりうる事態 B (結果) について推量判断する場合、その事態 B は、過去・現在(進行中)・未来の出来事が想定できると思われる。以下、事態 A の時制と事態 B (結果推量) の命題の時制別に分析を行う。事態 A から起こりうる結果、つまり事態 B について話し手が推量判断する場合、事態 B の時制は当然事態 A より先である。

まず、例文(23)のように事態 B が過去に存在する場合、「ようだ」「らしい」は事態 A

から起こりうる事態について推量判断することができない。また「(し) そうだ」は過去形とは接続できない。それに対し、韓国語の場合、「^{geosgatda}짓갈다」「^{deushada}뚫하다」で事態 A から起こりうる事態について推量判断することができるが、「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」では事態 A から起こりうる事態について推量判断することはできない。

(23) a 昨夜は雪がたくさん降った。それじゃ昨夜は道が込んでいた*ようだ/*らしい/(し) そうだ。

b 어젯밤은 눈이 많이 왔었다. 그럼 어젯밤에는 길이 막혔었을 ^{geosgatda}짓갈다 /

^{deushada}뚫하다 / *^{moyangida}모양이다 / *^{gaboda}가보다.

次に、事態 A から起こりうる事態 B が現在に存在する場合の例を見てみよう。

(24) a 弟は昨夜寝てない。弟は今頃、学校で寝ている*ようだ/*らしい/(し) そうだ。

b 동생은 어젯밤 자지 않았다. 동생은 지금쯤 학교에서 잠을 자고 있을

^{geosgatda}짓갈다 / ^{deushada}뚫하다 / *^{moyangida}모양이다 / * (^(lyeo)려) 나보다.

事態 B が現在に存在する場合、「(し) そうだ」では事態 A から起こりうる事態について推量判断することができるが、「ようだ」「らしい」ではできない。それに対し、韓国語の場合、「^{geosgatda}짓갈다」「^{deushada}뚫하다」は事態 A から起こりうる事態について推量判断するとき

用いられるのに対し、「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」は用いられない。

最後に事態 B が未来に存在する例を見てみよう。

(25) a コーヒーを3杯も飲んだ。今晩は眠れない*ようだ/*らしい/(し) そうだ

(再掲)

b 커피를 3 잔이나 마셨다. 오늘밤은 잠을 못잘 ^{geosgatda}짓갈다 / ^{deushada}뚫하다 / *^{moyangida}모양이다

(^(lyeo)려) 나보다 / *

(26) a 今日からGWが始まる。明日は遊びに行く人で道が込む*ようだ/*らしい/(し) そうだ。

b 오늘부터 골든위크가 시작된다. 내일은 놀러가는 사람들로 길이 막힐 것 같다 ^{geosgatda}

못하다 / *모양이다 / * (려) 나보다 ^{(lyeo) naboda}

(27) a 明日は子供の日である。明日は遊園地に人がいっぱいいる *ようだ / *らしい / (し) そうだ。

b 내일은 어린이날이다. 내일은 유원지에 사람이 많이 있을 것 같다 / 못하다 ^{geosgatda deushada}

*모양이다 / * (려) 나보다 ^{moyangida (lyeo) naboda}

(25) ~ (27) は事態 A から起こりうる事態 B が未来に存在する例であり、(25) の事態 A は過去、(26) は現在、(27) は未来に存在する。(25) ~ (27) から分かるように、事態 B が未来に存在する場合、事態 A の時制に関係なく、「(し)そうだ」^{geosgatda} 「못하다」^{deushada} で事態 A から起こりうる事態について推量判断することができるが、「ようだ」「らしい」^{moyangida} 「가보다」^{gaboda} はできない。

5.2 分析結果のまとめ

本稿で取り上げている例文はすべて事態 A と事態 B が因果関係で結ばれている。以上の例文分析から、事態 B が事態 A から起こりうる事態について話し手が推量判断する場合、日韓両言語形式の使用には制限が生じることが分かった。しかし、事態 A が提示されていない場合、つまり、話し手が事態 A から起こりうる結果について推量判断していない場合は、全ての推量形式で推量判断することができる。

(25') a 今晚は眠れないようだ / らしい / (し) そうだ。

b 오늘밤은 잠을 못잘 것 같다 / 못하다 / 모양이다 / (려) 나보다 ^{geosgatda deushada moyangida (lyeo) naboda}

(26') a 明日は遊びに行く人で道が込むようだ / らしい / (し) そうだ。

b 내일은 놀러가는 사람들로 길이 막힐 것 같다 / 못하다 / 모양이다 / (려) 나보다 ^{geosgatda deushada moyangida (lyeo) naboda}

(려) 나보다 ^{(lyeo) naboda}

7 人称によって許容度に差が生じるが、人称による推量表現形式の制限については本稿では論じない。

しかし、本稿で取り上げているような、事態 A と事態 B が因果関係で成り立っており、話し手が事態 A から起こりうる事態について推量判断する場合、事態 B を表す推量判断形式はその使用に制限が見られる。

日本語の場合、「(し) そうだ」は、ある事態 A から起こりうる事態を推量判断する時に用いることが出来るが、「ようだ」「らしい」はできない。また韓国語の場合、「^{geosgatda}것 같다」

「^{deushada}듯하다」は事態 A に基づき、そこから起こりうる事態について推量判断することができるが、「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」はできない。「(し) そうだ」「^{geosgatda}것 같다」「^{deushada}듯하다」が事態 A から起こりうる事態 B について推量判断する時に用いられるのに対し、「ようだ」「らしい」「^{moyangida}모양이다」「^{gaboda}가보다」が用いられない理由については次章で述べる。

6. 考察

まず「原因推量」か「結果推量」かによって推量判断形式の使用に差が見られる理由について日本語の場合から考えてみる。

以上の分析から「ようだ」「らしい」は「原因推量」を表すことができるのに対し、「(し) そうだ」はできず、また「(し) そうだ」は「結果推量」を表すことができるが、「ようだ」「らしい」はできないことが分かった。以下では、それぞれの表現が「原因推量」であるか「結果推量」であるかによってその使用に制限が生じる理由について述べる。

菊地康人 (2000a) は、(28) の例は<現実>世界を<現実>世界として解析しているの
で、ソウダは使われず、「らしい」が使われると述べている。

(28) 普段はすいているのに、今日は月末だからこんなにこんでいるらしい/*(し) そうだ。
(菊地 (2000a))

菊地 (2000a) は、確認・確定された世界を「現実世界」と呼んで、(28) は話し手が確認された世界として解釈しているため、「らしい」は使われ、「(し) そうだ」は使われないと述べている。菊地 (2000a) の「現実世界」という概念は本稿の時制による「原因推量」「結果推量」とも関わりを持つ。すなわち、菊地 (2000a) の「<現実>世界を<現実>世界として解析している場合には「らしい」が使われる」という説明は、「らしい」が「原因推量」の時に用いられる本稿の主張の裏付けとなる。話し手がある事態(本稿でいう事態 A)に基づいて、その原因について推量判断する場合、ある事態の原因というのはすでに現実化つまり、現実中存在しており、話し手は事態 A の原因を様々な事態 B として捉える。

(15) ' 昨夜隣の家で物を投げる音が聞こえた。夫婦喧嘩をしていたようだ/らしい/×(し) そうだ。
(再掲)

(15) 'は話し手が昨夜隣の家で物を投げる音を聞いて、その原因が夫婦喧嘩であると推量判断している。すなわち、「昨夜隣の家で物を投げる音が聞こえた」という事態はすでに現実世界に存在しているおり、話し手はその原因を「泥棒が入ったかもしれないし、夫婦喧嘩をしたかもしれない」などの様々な原因の中で、その原因を「夫婦喧嘩をした」と捉えている。

また、菊地(2000b)の「<現実>世界を<現実>世界として解析している場合には「(し) そうだ」は使われない」という説明は「(し) そうだ」が「原因推量」には用いられず、「結果推量」の時に使われるという本稿の主張の裏づけになる。ある事態に基き、そこから起こりうる結果というのはまだ現実化されていないからである。「ようだ」「らしい」と「(し) そうだ」が「現実世界を現実世界として捉えているかどうか」は現実性のない文にしてみればその差は明らかである。「ようだ」「らしい」は「現実世界を現実世界として捉えているため、(29)のような現実世界として捉えられない(捉えにくい)文で「ようだ」「らしい」を用いると非文になる。(29)は「おなかがすいて死ぬ」ということは実際、「餓死」という可能性もあるが、話し手が実際、現実世界で起こりうる事態として捉えていない場合、「ようだ」「らしい」は用いられない。

(29) 私はおなかがすいて死ぬ (し) そうだ / *ようだ / *らしい。

また、例文分析から「原因・結果推量」において事態Bが過去に存在する場合、「ようだ」「らしい」は事態Bの命題に接続できるのに対し、「(し) そうだ」はできないことが分かった。このように「ようだ」「らしい」が過去形に接続でき、「(し) そうだ」が接続できないことも「ようだ」「らしい」「(し) そうだ」の「原因・結果推量」の時の使用制限との関わりで説明できる。菊地(2000b)は「(し) そうだ」は「<まだ現実のものとなっていない次の局面(次の絵)>を思い描いて述べる形式であると説明している。これは、本稿の「(し) そうだ」が「結果推量」に用いられるという説明と繋がるものである。「(し) そうだ」はまだ現実のものとなっていない次の局面を描くため「(し) そうだ」は過去に起きた出来事に対しては推量判断できない。したがって、「(し) そうだ」は過去形とは接続できない。それに対し、「ようだ」「らしい」は、<現実>世界を<現実>世界として解析しているため、過去形にも接続することができる。過去に起こった出来事はすでに現実のものとして存在するからである。

次に韓国語において「原因推量」か「結果推量」かによって推量判断形式の使用に差が見られる理由について考えてみる。

例文分析から、「^{gəsgətdə}「갯갈다」^{dəʃhədə}「뭇하다」^{moyangida}「모양이다」^{gaboda}「가보다」は事態Aの原因について推量判断することができ、特に^{moyangida}「모양이다」と^{gaboda}「가보다」は「原因推量」のニュアンスが強く感じられることがわかった。以下では、4つの表現形式が事態Aの原因について推量判

断する時に用いられ、特に「모양이다」^{moyangida}と「가보다」^{gaboda}がよく用いられる理由について考えてみる。

韓国語の場合、話し手の直感による推量判断には「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}は使われるが、「모양이다」^{moyangida}「가보다」^{gaboda}は使われない。

(30) なんとなく 雨が降る 젓갈다 / 뚫하다 / *모양이다 / *(려) 나보다.

(30)で「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}が許容でき、「모양이다」^{moyangida}「가보다」^{gaboda}が許容できない理由は判断根拠の必要性の有無によるものである。「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}は(30)のように判断根拠がなくても使われるのに対し、「모양이다」^{moyangida}「가보다」^{gaboda}は判断根拠が必要となるため、

(30)のような直感による推量判断には使われない。이 (2001)は「젓갈다」^{geosgatda}と「뚫하다」^{deushada}は話し手の勘に依存する場合が多いと述べ、「모양이다」^{moyangida}と「가보다」^{gaboda}は知識に依存する場合が多いと述べた。さらに、이 (2001)は、「모양이다」^{moyangida}「가보다」^{gaboda}は客観的な外的情報を根拠とし、その原因になりうる命題を推量判断する形式であるのに対し、「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}は直接命題を推し量ったり判断する形式であると述べた。

ある事態を起こした原因について話し手が推量判断する場合、話し手は、直感によって推量判断することもできるが、話し手は、主に自分の経験など直接的な根拠と外部から得た間接的な根拠を総合しながら、起こった事態の原因について推量判断する。話し手はある事態の「原因」というのはすでに現実世界に存在する出来事(根拠)であると捉えるため、「原因推量」においては、根拠の存在がなくても推量判断できる「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}より、判断根拠の存在が必須である「모양이다」^{moyangida}「가보다」^{gaboda}の方がより使われると思われる。

また、例文分析で「젓갈다」^{geosgatda}「뚫하다」^{deushada}は「結果推量」を表すことができるのに対し

「^{moyangida gaboda}모양이다」「^{gaboda}가보다」はできないことが分かった。以下、その理由について考えてみる。

すでに述べたように、本稿で扱う全ての例文の事態 A と事態 B は因果関係で成り立っている。因果関係は、時・空間的な継起性によって見出される場合が多いため、未然の事態について話し手が推量判断する場合、話し手は「原因推量」より「結果推量」を行いやすい。韓国語の場合、未然の可能世界⁸について推量判断をする場合、「^{geosgatda deushada}것 같다」「^{deushada}못하다」は用いられるのに対し、「^{moyangida gaboda}모양이다」「^{gaboda}가보다」は用いられない。

(31) めいは大きくなったらきれいな服を穿くことだ／穿けないことだ／*模範だ／*（例）なほどだ。
성카는 ^{geosgatda deushada}크면 이쁜 ^{moyangida gaboda}것 같다／^{deushada}못하다／*^{moyangida}모양이다／* (예) 나보다.

また、既に述べたように、「^{geosgatda deushada}것 같다」「^{deushada}못하다」は「^{moyangida gaboda}모양이다」「^{gaboda}가보다」のように、根拠と命題との因果関係が密接ではなく、単に命題を内的観点から推量判断する。そのため、「^{geosgatda deushada}것 같다」「^{deushada}못하다」は「原因推量」の場合にも、「結果推量」の場合にも使われる。

7. まとめ

以上、因果関係における日韓両言語の推量表現について分析を行った。その結果、「ようだ」「らしい」「^{geosgatda deushada}것 같다」「^{deushada}못하다」「^{moyangida gaboda}모양이다」「^{gaboda}가보다」は「原因推量」を表すことが出来るのに対し、「(し) そうだ」はできないことが分かった。また「(し) そうだ」「^{geosgatda deushada}것 같다」「^{deushada}못하다」は「結果推量」を表すことが出来るのに対し、「ようだ」「らしい」「^{moyangida gaboda}모양이다」「^{gaboda}가보다」はできないことが分かった。その結果をまとめると<表 1>のようになる。

⁸ 菊地 (2000b) は「可能世界」とは、<確認・確定された現実とは区別して捉えられた世界>であると述べた。

【表1】因果関係による日韓両言語の使用

言語形式 \ 因果関係の種類	原因推量	結果推量
ようだ	○	*
らしい	○	*
(し) そうだ	* (?)	○
geosgatda 것 같다	○	○
deusbada 듯하다	○	○
moyangida 모양이다	○	*
gaboda 가보다	○	*

【○：使用可能 *：使用不可 ?：使用すると不自然】

【参考文献】

- 伊藤丈志 (1997) 『『らしい』・『ようだ』の基本的意味と談話制約』『International Journal of Pragmatics』(日本プラグマティクス学会II編) 7巻、pp69-84
- 柏木成章 (2001) 『『そうだ』・『ようだ』・『らしい』』『別科論集』3巻、大東文化大学別科日本語研修過程II編、pp55-70
- 菊地康人 (2000a) 『『ようだ』と『らしい』-『そうだ』『だろう』との比較も含めて-』『国語学』第51巻1号、pp46-60
- (2000b) 『いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味—あわせて、その否定各形の意味の差について』『日本語教育』107号、pp16-25
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
- 中村 亘 (2000) 『『ようだ』『らしい』『そうだ』をめぐって—事態の捉え方の違いという観点から—』『早稲田日本語研究』8巻、早稲田大学国語学会II編、pp62-51
- 金東郁 (1998) 『推量形式としての『だろう』『ようだ』『らしい』と韓国語の対応関係』『단국대 일본의 言語와 文学』3, 단국대학교, pp79-89
- 이기중 (2001) 『우리말의 인지론적 분석』 도서출판 역락
- 鄭惠貞 (2000) 『韓國語의 連体形 ㄹ (l), ㄴ (n), から見た『ソウダ』『ヨウダ』『さわらび』』9号、文法研究会、pp35-45
- ケキゼ・タチアナ (2000) 『「(～し) そうだ」の意味分析』『日本語教育』107号、pp7-15